

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
Intellectual Property Studies (Summer Intensive)/比較知的財産法特論 (Intellectual Property Studies (Summer Intensive)/Advanced Study of Comparative Intellectual Property Law)	MPCC22/ MPCC08	2	1年次	集中	村川 一雄(ムラカワ カズオ) 三浦 武範(ミウラ タケノリ) 内藤 浩樹(ナイノウ ヒロキ) 杉浦 淳(スギウラ ジュン) 角田 全功(カクタ マサノリ)

授業のねらい概要	<p>市場経済のグローバル化が加速するなか、グローバルな知的財産戦略の立案や遂行のためには、各国の知的財産制度や国際的なライセンス実務などに関する正確な理解が不可欠である。</p> <p>本講義では、米国を中心にアジアを含む特許制度や国際ライセンス契約実務、さらに世界的な知的財産活動について英語で学ぶことにより、国際的な知的財産問題に対応する実践的な知識と論理的な考察力や表現力を修得することを狙う。あわせて、自国の法制度を比較法的に俯瞰し、未知の問題にも対処しうる能力を涵養することをめざす。</p> <p>本講義は夏期集中講義期間に実施し、国内外から招聘する著名な講師(弁理士や弁護士、実務家など)による講義と、受講生によるプレゼンテーション(評価者による質疑応答を含む)および事後レポートから構成される。使用言語は、すべて英語とする。</p>
----------	---

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	ガイダンス	講義全体の進め方、プレゼンテーションの事前指導	プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第2回	米国司法制度の基礎①	合衆国憲法、連邦法と州法の関係、訴訟制度を理解し、説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第3回	米国司法制度の基礎②	合衆国憲法、連邦法と州法の関係、訴訟制度を理解し、説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第4回	比較特許法概論①	特許権の保護範囲に関する比較法的検討を行い、その要点を説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4時間以上の授業外学習を行うこと。
第5回	比較特許法概論②	特許権の保護範囲に関する比較法的検討を行い、その要点を説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第6回	米国特許法の動向①	先発明主義、特許法改正について理解し、説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第7回	米国特許法の動向②	先発明主義、特許法改正について理解し、説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4時間以上の授業外学習を行うこと。
第8回	米国特許判例研究①	特許権侵害、クレーム解釈について理解し、説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第9回	米国特許判例研究②	特許権侵害、クレーム解釈について理解し、説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第10回	国際ライセンス契約の基礎と演習①	国際ライセンス契約の基礎、交渉実務演習を行い、そのポイントについて説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第11回	国際ライセンス契約の基礎と演習②	国際ライセンス契約の基礎、交渉実務演習を行い、そのポイントについて説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第12回	特許出願の基礎と明細書作成演習①	国際特許出願や明細書作成の基礎について学び、あわせて演習を図り、そのポイントについて説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第13回	特許出願の基礎と明細書作成演習②	国際特許出願や明細書作成の基礎について学び、あわせて演習を図り、そのポイントについて説明できる。	資料の読解 プレゼンテーションの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第14回	知財研究プレゼンテーション	受講生による英語での知財研究プレゼンテーションを行い、質疑応答に適切に対応できる。	プレゼンテーションの準備 事後レポートの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第15回	特別講義	知的財産に関する最近のホットな話題や議論について理解し、その概要について説明できる。	資料の読解 事後レポートの準備 予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。

到達目標	<p>以下に示される必要最低限の項目を達成すること。</p> <p>(1) 講義への積極的な参加と目標達成に向けた意欲 ・時間内に課題に対して真摯に取り組むことができる。 ・予習復習、その他、必要な事前調査に取り組むことができる。</p> <p>(2) 講義での基礎的な技術・知識の定着 ・米国特許法やアジア特許法、国際ライセンス実務、世界的な知的財産活動などについて、その内容を理解し、説明できる。 ・講義やプレゼンテーションなどから得た自身の考えや課題を、英語で論理的に表現し、まとめることができる。 ・比較法的な観点から、知的財産制度や課題について、英語でプレゼンテーションが可能であり、適切に、質疑応答ができる。</p>
評価方法	<p>・講義への取り組み(講義での積極性、質疑応答、資料準備や講義進行における貢献度など):50%</p> <p>・事後レポート(基礎知識の整理、問題意識の明確性、論理構成など):30%</p> <p>・プレゼンテーションへの取り組み(資料作成、発表、質疑応答など):20%</p> <p>なお、事後レポートやプレゼンテーションについて、その都度、フィードバックを図り、理解の促進を図る。</p>
成績評価基準	<p>目標(1)と(2)について、必達条件とする。なお、目標(1)が実現できていれば、最大+50点を加え、目標(2)について達成している場合、最大+50点を加算する。</p> <p>A: 到達目標のうち、すべての項目を高水準で達成している。 B: 到達目標のうち、すべての項目を達成している。 C: 到達目標のうち、2つの項目を達成している。 D: 到達目標のうち、1つの項目を達成している。 F: 到達目標をまったく達成することができない。 到達目標の(1)をミニマムリクワイアメントとする。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			アメリカ特許法とその手続 (Elements of United States Patent Law)	Donald S. Chisum (竹中俊子訳)	雄松堂
			Intellectual Property: Patents, Trademarks, and Copyright in a Nutshell (4th ed.)	Arthur R. Miller, Michael H. Davis	West Group
			Understanding Copyright Law (4th ed.)	Marshall A. Leaffer	Matthew Bender

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			アメリカ著作権法入門	白鳥綱重	信山社

受講心得	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による米国やアジア諸国の特許制度の英語での受講機会は貴重であり、入念な予習と十分な復習が必要である。 ・前期開講の「知的財産会議英語」や「米国特許法特論」、「アジア知的財産法特論」、「知的財産関連条約要論」などの講義を受講しておくことが望ましい。 ・国際的に活躍する知財専門家をめざすためには、自国法と他国の知的財産法を客観的に比較することができる力を身につけるとともに、講師や海外の受講生と積極的に交流し、人的ネットワークの構築に心がける。 ・講義やプレゼンテーションには積極的に参加し、高度な知識の修得やコミュニケーション力の向上に努める。
------	---

オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーは講義前後の休憩時間および別途配布する時間帯とする。 ・夏期講義時期は、2019年8月26～8月30日を予定している。
---------	--